

問題発見型／解決型学習(FBL/PBL)
テーマ提案（学生募集内容） / Project Proposal

テーマ名称 Project name	MaaS(Mobility as a service)時代のためのデータベース構築と分析 Database construction and analysis towards an era of MaaS (Mobility as a service)
実施責任者 Instructors	情報学研究科数理工学専攻 特定准教授 佐藤彰洋 デザイン学リーディング大学院（調整中）
実施協力者 Collaborators	株式会社 Andeco 代表取締役 早川 慶朗、鈴木 健之 株式会社 V フォース 代表取締役 佐藤光一、阿良田遼
テーマの背景 Background	<p>自動車の自動運転技術の開発、レンタル自転車サービスの全国的拡大、Uber などのライドシェアの世界的普及など、移動に対するイノベーションが、拡大している。その流れの中で、MaaS(Mobility as a service)という概念が提唱されている。来るべき MaaS 時代に、「どこに行くのか？何をしに行くのか？」という「行き先や行動の目的」がより重要となってくる。そのためには、目的地の情報が MaaS と連携するためには、デジタル化されている必要があるが、まだまだ世の中には、デジタル化されていない情報（地域のイベント、お祭り、ライブスケジュール等）がたくさんあり、それらのデジタル化ニーズとデータ連携ニーズが存在する。</p> <p>また利用しやすい方法にするには、デジタル化された情報を、ユーザーニーズや、サービスと組合せてユーザーへ届ける仕組みまで、トータルデザインされる必要がある。これらを、MaaS 時代に合わせてフィールド調査とデータ分析を併用することにより探索的に調査し、要求および設計仕様の特定を行う。</p>
実習の概要 Overview	<p>本課題は、MaaS サービスを開発する Andeco,V フォースの協力を得ることにより、京都を舞台に、地域のフィールドワークからの潜在課題の発見を行うこと、仮説モデルをベースにしたユーザー（学生、観光客）へのヒアリング、サービスモデルの開発、データベース構築などの実習を行う。</p> <p>サービスモデルのトライアルを行うことで、MaaS サービスの本質を掴むこと、サービスデザインのプロセスの実習を行う。</p> <p>WEB やアプリのプログラミングや、翻訳 API の活用など、アナログ情報とデジタルデータへの連携などを実習する。</p>
実施計画、実施場所 Schedule, location	京大キャンパス 京都市内他 詳細は実施計画を参照。
履修条件 Conditions for participation	<p>学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険への加入 サービスモデル開発や、起業やスタートアップ企業への関心があるとよい。 コンピュータプログラムの経験があることが望ましい。</p>
募集人数 / Number of participants	2 名以上、8 名以下 More than 2 students and less than or equals to 8 students.
募集締切 Application deadline	4 月 20 日（金） 20 th April (Friday)

応募資格 Intended participants	京都大学の大学院生（デザイン学予科生、デザイン学本科生ならびに情報学研究科、工学研究科、教育学研究科、経営管理大学院の修士課程、博士課程）指導教員が許可する場合は、その他の研究科に在籍する修士課程の大学院生についても受講を認めることがある。
応募方法 How to apply	デザイン学公式 Web の FBL/PBL のページ（下記）から参加申込を行うこと。 http://www.design.kyoto-u.ac.jp/education/fbl_pbl/ 原則として先着順とする。参加の可否はメールで通知する。
問題発見や解決に用いるデザイン理論やデザイン手法 Design theories and methods for framing and solving problems	デザインプロセス。ネットワークシステムデザイン。 UX デザイン、UI デザイン
理論や手法の学習方法 How to study theories and methods	ブレインストーミング 現実のフィールドの調査 WEB とアプリの連動サービスの構築
成果の公開方法 Publication of the results	サービスモデルとして、夏期にサービス実証
成績評価方法 Evaluation	アナログデータから何をどのように収集するか。 MaaS サービスに向けて、街においてどのように利活用するか。 設計 50%、実装 10%、達成度 40%
特記事項 Special remarks	テーマに関する質問があればメールで受け付ける。 宛先: aki@i.kyoto-u.ac.jp

実施計画 / Schedule

コマ Unit	日程 Date	場所 Location	実施内容 Content
1-2	5/18	吉田	課題説明 ブレインストーミング 班分け
3-5	5/25	吉田	情報収集、問題発見、現場調査
6-8	6/8	吉田	データのデザイン、データ収集モデルの作成
9	6/15	吉田	中間発表
10-14	6/29	吉田	サービスの設計、プロトタイピング
15	7/6	吉田	発表会・評価